

# 小中学校における静岡茶の食育と 愛飲の促進について

(令和2年度第1回県民会議資料)



- 1 令和元年度県民会議の結果
- 2 令和2年度の取組
- 3 取組事例
- 4 今後の取組に向けた検討

# 1 令和元年度県民会議の結果

## 開催日等

- ・開催日 第1回：令和元年10月7日（月） 第2回：令和2年3月に書面会議
- ・委員 磐田市教育長他（出席者13名）、オブザーバー：木苗直秀教育長

## 主な意見

区分	内容
静岡茶の愛飲機会の提供 <b>拡大</b> に向けた提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・条例には、県や小中学校設置者、事業者等の「責務」が規定されているので、各々が趣旨を十分に理解して取り組むことが重要</li><li>・<u>お茶の入れ方だけでなく、児童生徒の興味関心を引き出す方法や、急須のない家庭での簡便な飲み方などの提案が必要⇒①-1、①-2</u></li><li>・<u>学校でも、給食だけでなく、理科などの授業や様々なイベントの機会を捉え、お茶との関わりを持てるようにしていくと良い⇒①-1、①-2</u></li></ul>
静岡茶の愛飲の <b>定着</b> に向けた提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>愛飲の定着につながるように、お茶を飲んでもらうことだけを目指すのではなく、文化や歴史、健康など、多方面からお茶の魅力を伝える⇒②-1、②-2</u></li><li>・<u>愛飲に取り組んでいる学校のお茶の供給形態（スティック茶、紙パック茶等）や提供頻度等を分析した上での対応が必要⇒③</u></li><li>・<u>家庭教育学級等の機会を通じ、保護者との連携して家庭での習慣化を図ることも重要⇒②-3</u></li><li>・<u>取組の定着に向け、各学校の意向や取組の状況、児童生徒の感想等を調査⇒④</u></li></ul>

主に①～④について実施

## 2 令和2年度の取組 ①-1 静岡茶講座の実施

### 家庭におけるお茶の愛飲を促進

- 家庭における愛飲の促進を図るため、国庫事業を活用して保護者を対象とした静岡茶講座を実施

区 分		内 容
期 間		令和2年10月から令和3年1月
対 象		県内公立小中学校・県立特別支援学校・各市町のPTA・家庭教育学級等35箇所(各箇所2回実施)(実質19箇所21回)
講座 (案)	講 師	日本茶インストラクター等 2名程度
	対象人数	20名程度～(45～60分／1コマ)
	講義内容	静岡茶の概要、お茶の種類、お茶のおいしい入れ方等
	進め方	保護者等がおいしいお茶の入れ方を実践(子供も参加)

## ①-2 愛飲機会の提供拡大に向けた人材育成

### 食育担当者向け研修会の開催

- ・県経済産業部と県教育委員会、JA静岡中央会、市町が連携して、ふじのくに茶の都ミュージアムにおいて食育担当者向け研修会を開催（9月30日、参加者24名）
- ・昨年度のアンケート結果に基づき、茶業関係者との意見交換の場として、市町及びJA茶担当者とのグループ討議を実施



茶園で茶摘み体験をする  
栄養教諭等食育担当者



ホットプレートでお茶づくり体験



市町及びJA茶担当者  
とのグループ討議

### 食育担当者による日本茶アドバイザー資格取得の拡大（参考）

- ・小中学校の食育に携わる栄養教諭、学校栄養職員、家庭科教諭等が日本茶アドバイザー講習を受講し、22名が資格を取得
- ・平成29年度から令和元年度までの取得者は延べ77名（東部23名、中部34名、西部20名）
- ・取組事例集を作成、ホームページにて掲載（令和2年3月から）

## ②-1 多方面からお茶の魅力を伝える

### 小学生を対象とした茶競技会「Cha-1グランプリ」の開催

- ・お茶クイズ（文化や歴史などを含む）・外観によるお茶の種類当て・闘茶（飲用によるお茶の種類あて）の3競技により、全県のチャンピオンを決定
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Webで開催
- ・競技を通じて子供たちのお茶への関心と親しみを深める



### ふじのくに茶の都ミュージアムにおける小中学校の施設見学の受入

- ・施設見学や体験学習を積極的に受け入れており、11校451名が来館（令和2年10月14日時点）
- ・展示順路に沿って、問題を解きながら見学コースを楽しむ「お茶のみりよく発見シート」を配布して展示内容・体験への関心を喚起



・ミュージアムを利用することで実際に見て、体験することができ、学ぶ機会が充実

## ②-2 国庫補助事業を活用した小中学校へのお茶の配布

### 県内全ての小中学校にお茶を配布

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、お茶の消費量が減少したことから、農林水産省がお茶の生産・供給体制を維持することを目的とした「茶販売促進緊急対策事業」を実施
- ・ 上記事業を活用し、県内小中学校や特別支援学校の児童生徒等に静岡茶を無償配布
- ・ リーフレットやチラシ等を県教育委員会から各市町教育委員会へ送付



### ←各学校への送付資料 (水筒でのお茶持参を促進)

- ・ 愛飲を推進する期間の設定を推奨
- ・ 和食給食の日（11月24日）、ふるさと給食の日（毎月19日）、全国学校給食週間（1月24日～30日）インフルエンザ流行期等に合わせた設定を推奨

## ②-3 愛飲の定着に向けた取組「PTAとの連携支援」

### モデル校における学校と保護者との連携支援

- ・「静岡茶愛飲促進事業」及び「つながる食育推進事業」を活用し、モデル校（裾野市立 東小学校、富岡第一小学校）においてPTAと連携した愛飲の定着に向けた取組を実施
- ・裾野市立東小学校において、保護者による食育のサポートを試行
- ・今後、両校では、家庭教育学級でのお茶講座等と、茶産地の関係機関による出前講座を実施予定

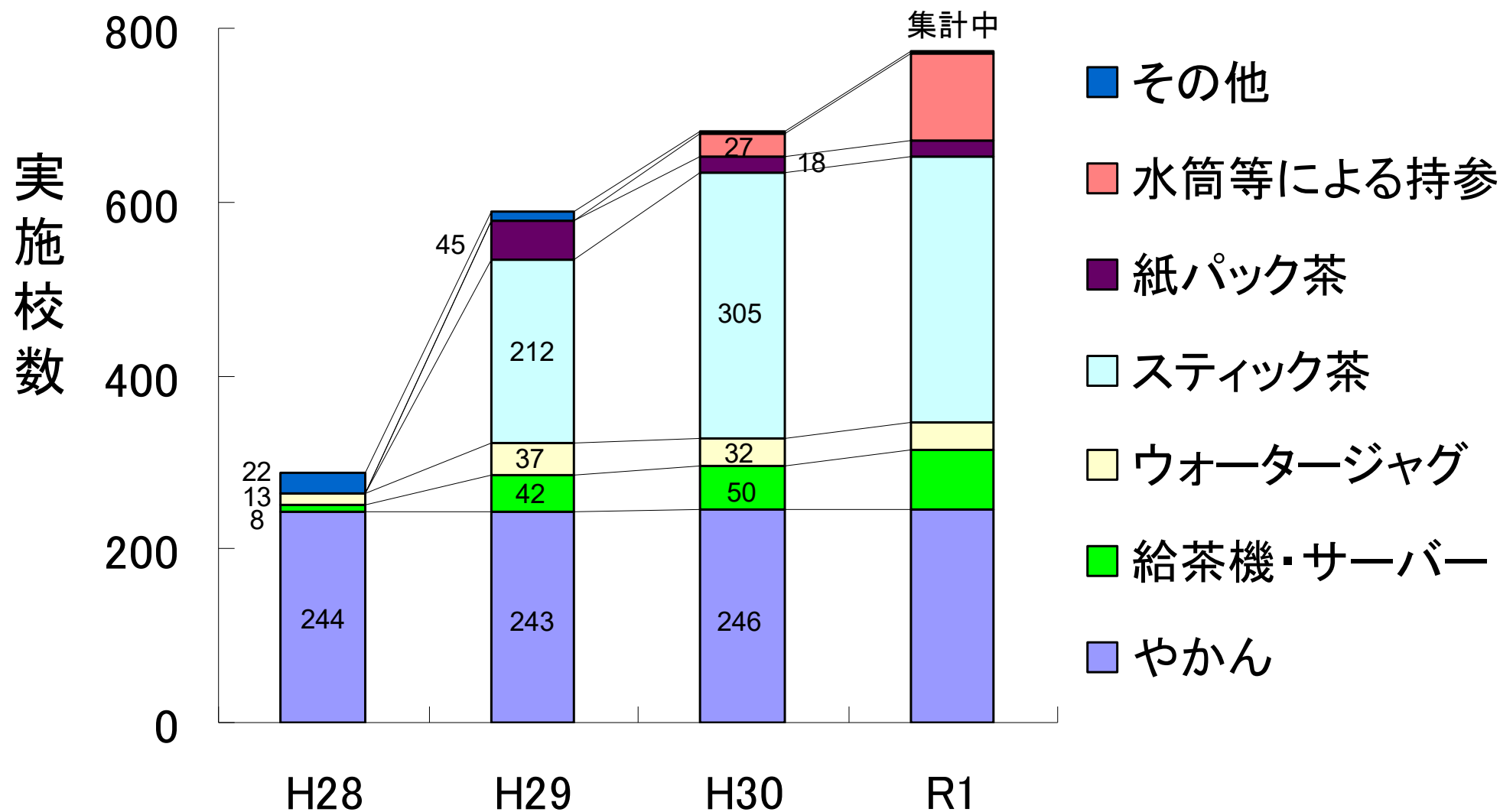


児童向けお茶の入れ方教室



### ③ 飲用状況の分析

- ・ 提供方法としては、「給茶機」と「水筒等による持参」が拡大見込み
- ・ 給茶機の設置校が増加見込み



## ④ 静岡茶講座実施学校でのアンケート調査

- ・ 講座を受講した児童生徒に対して行ったアンケート調査（感想を自由記述）において、80%が家庭でも実践したいと記入
- ・ 担当教諭向けアンケートから、担当教諭全員が講座に満足しており、児童生徒が家庭で呈茶を実践したのを65%の教諭が把握できていたことを確認

アンケート調査：静岡茶講座実施校の対象児童生徒17クラス546人のうち、各クラスから3人を抽出集計(51人)

「家族に入れてあげた」、  
「家でも入れてみたい」等  
と記入した児童生徒の割合

家庭での実践

「入れ方の違いで味がここまで違  
うのにびっくりした」「3煎目がさっ  
ぱりして美味しかった」等と記入  
した児童生徒の割合。

入れ方

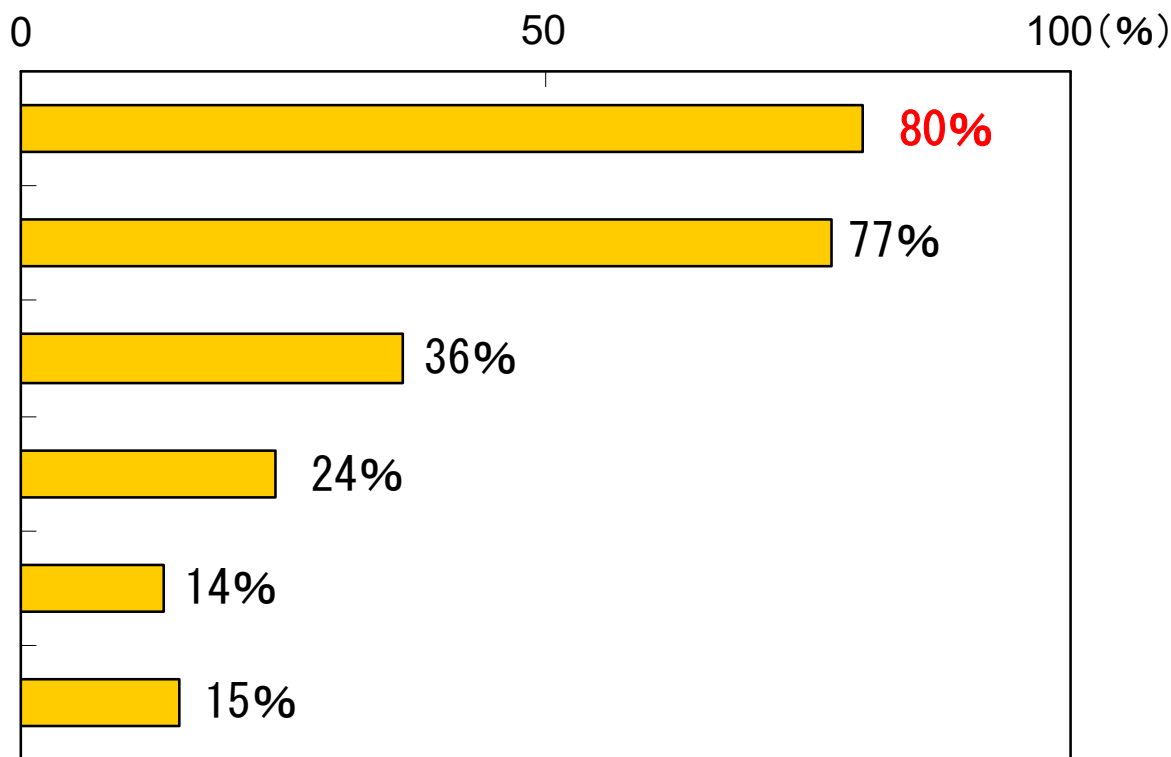
種類

機能性

香り

地元意識

「静岡県民としてもっとお茶を飲  
みたい。」「静岡県民なので、他県  
や外国の人にこの文化を伝えたい。」  
等と記入した児童生徒の割合。

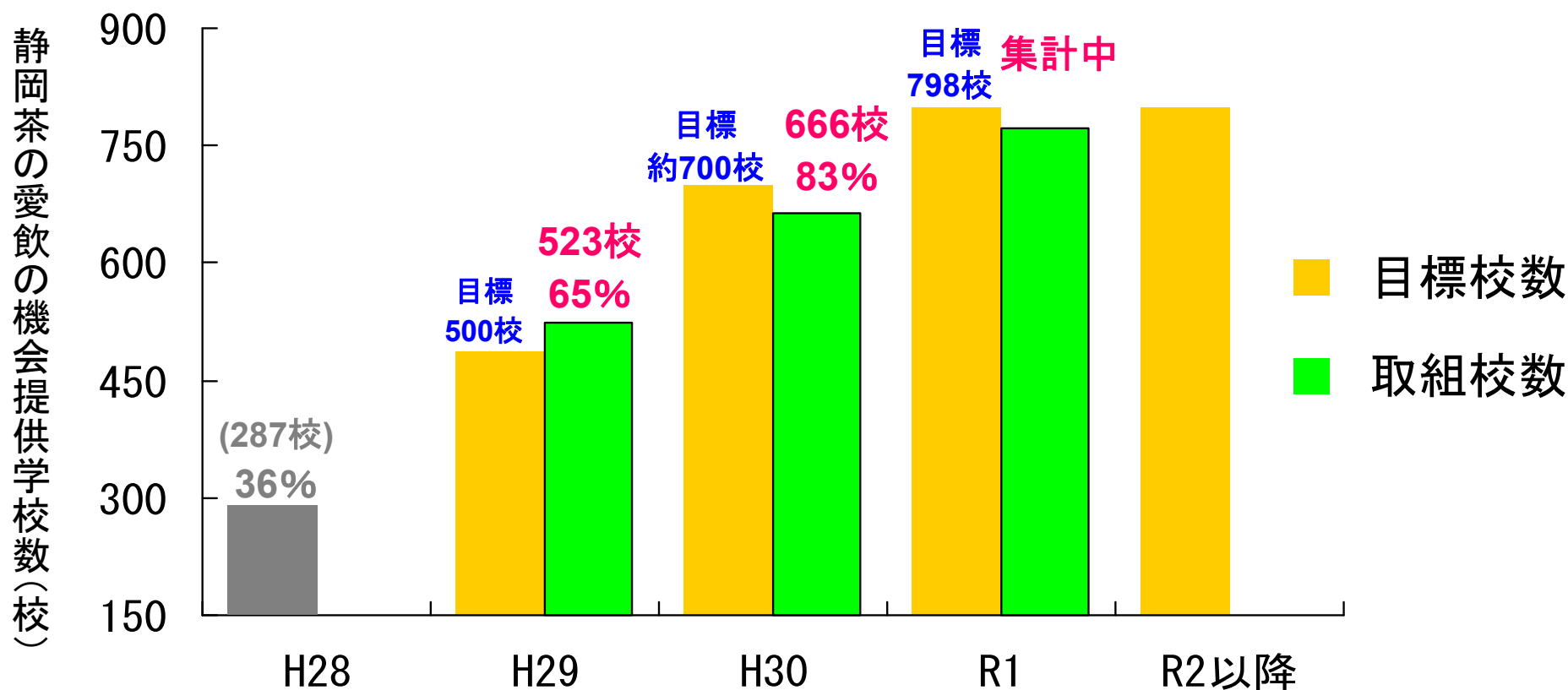


茶の食育体験が家庭での実践につながることを確認

→ 家庭を対象とした更なる推進が必要

## ⑤ 静岡茶の愛飲機会の提供

学校現場や茶業関係者の取組により、県内小中学校798校における静岡茶の愛飲の機会提供が平成29年度の523校（65%）から平成30年度は666校（約83%）に増加  
令和元年度は現在集計中、令和2年度はさらなる増加を目指す



（県教育委員会調べ。令和元年度は見込み。）

今後は取組の定着化（学校での指導継続、家庭での愛飲の習慣化、地域茶業者と連携した体験活動の継続）が必要

### 3 取組事例 ～静岡茶の愛飲に関する取組事例①～

掛川市立大坂小学校 対象者:3年生



#### 【お茶を五感で体験】

総合的な学習の時間において、お茶揉み体験を行い、お茶の葉を煎茶にする工程を学習。



#### 【お茶を五感で体験】

学校給食で掛川産の粉末茶を使用した黒はんぺんのお茶フライを提供。提供の際には放送や訪問等によりお茶の歴史や健康効果等を児童に紹介。

## ～静岡茶の愛飲に関する取組事例②～

浜松市立三ヶ日西小学校 対象者：全校生徒



### 【カテキンの風邪予防効果に期待】

スティック茶を用意し、乾燥しやすい冬期の水分補給を実施したほか、お茶うがいを推進。



### 【昼の放送で呼びかけ】

放送でお茶の健康効果を紹介するほか、お茶を飲用したり、お茶でうがいをするよう児童に対して積極的に呼びかけを実施。

## 4 今後の取組に向けた検討 ①愛飲を更に**拡大**させるための取組

### 課題

- ・未実施校に対する丁寧な説明が必要

### 〔今後の取組（事務局案）〕

- ・各学校の教育目標等に関係する側面をPR
  - 異文化交流の題材としてのお茶、学校行事でのお茶の活用、等
- ・学校への説明機会をより多く設置
  - 児童生徒の健康増進等、学校での静岡茶愛飲機会の提供の動機付けとなる説明を丁寧に実施
  - (これまでの実例) 県職員が私学協会総会で取組事例と静岡茶の購入支援制度を紹介
  - (今後の取組) 静岡茶愛飲促進事業の活用などによりお茶の愛飲機会の提供を促進
- ・取組事例を県HP等で広く公表し、小中学校の愛飲の取組を促進
  - 今後の各種機会(Cha-1グランプリ、栄養教諭等研修会等)でPR

## ～②愛飲を定着させるための取組～

### 課題

- ・茶葉提供の事業が終了した後も、学校での愛飲の取組が継続される仕組みづくりが必要
  - 学校の費用・労力の負担を軽減した形で実施できる取組が必要
  - 学校だけでなく、学校以外から(家庭、地域の茶業関係者等)の働き掛けも必要

### 〔今後の取組（事務局案）〕

- ・家庭での静岡茶の継続的な愛飲の促進
  - 家庭において保護者が児童生徒にお茶の教育ができる環境を整備  
(保護者の理解が深まることで、水筒での静岡茶の持参や、お茶の体験活動・食育活動への参画率を高め、児童生徒の健康的な食生活を促すことを目指す)
- ・学校での保護者向け静岡茶講座を支援
  - 家庭教育学級やPTAの会合等、保護者と学校とが接点を持つ場面を活用し、保護者向けにお茶のおいしい入れ方等を紹介する静岡茶講座の実施を支援
- ・Cha-1グランプリの開催→子供たちがお茶について楽しく学ぶ機会の創出
- ・ふじのくに茶の都ミュージアムによる各種支援→学校向け教材キットの貸し出し等